協力隊で培った経験、未来を担う生徒たちに還元し、地域を元気にしたい

野田 昇吾さん　愛媛県立西条農業高等学校 教諭
Shogo Noda

協力隊としてアフリカ・モザンビークで野菜栽培を指導する中、「幸福の尺度は自分で決めること」と悟った。今、教員という立場に立って、青春真っただ中の生徒たちと向き合い、土を耕しながら、「世界は広い。井の中の蛙になるな」と励ます。

日本人として日本という国に成長させてもらったことを意識

日焼けした顔から飛び出す明るい声が教室に響く。農業実習に際し、緊張感ある説明だが、その隙間を縫うように屈託のない冗談が生徒に打ち込まれる。生徒たちは笑いの機微をとらえ、突っ込み返す。リズミカルでテンポのいい授業。退屈したしぐさを見せる生徒はいない。

将来は海外で働きたいと漠然と考えていたが、モザンビークでの2年間の協力隊活動の中で考えが変わった。日本人として日本という国に成長させてもらったことを意識するようになり、微力ではあるが、今まで培ってきた力を日本のために還元したいと考えるようになったのだ。

教員ならば、今までの経験を生徒に還元でき、その生徒が地域社会に還元できるのではと、教員を目指した。

神奈川県の農業高校で臨時教員を1年間経験し、愛媛県の教員採用試験に合格。県立伊予農業高校を経て、西条農業高校に赴任。生活デザイン科長に抜擢された。

井戸を掘り、種を配る。栽培方法を伝え、収益上げる

モザンビークでの活動は、オフロードバイクで農家をめぐり、野菜の栽培方法を指導することだった。ところが、いざ現場に踏み込んでみると水がない、種を購入する手段がない。課題は山積みだった。「一体、どうすればいいんだ」。

同じ州で活動している協力隊が活路を見出してくれた。農業土木の指導に来ていたその隊員が、浅井戸の作り方を教えてくれたのだ。まさか、モザンビークで井戸を掘るとは思っていなかった。

明るく対話しながら生徒を引っ張る

校内のビニールハウスで切り花を教える

フラワーアレンジメントの授業。
「私はこれを覚えるのに1年かかった」と笑いを誘う

水は確保できた。種は届ければいい。収入が上がりそうな品種に目星をつけ、種を小袋に入れて農家を訪問。栽培方法を指導しつつ種を安く販売した。堆肥作りをしたことがなかった農家が定期的に堆肥作りを行うようになった。種を売り、栽培方法を教えたキュウリで収入が向上するだけでなく、栽培方法を変えたことで収量を増やすこともできた。

一番うれしかったことは、現地の友達に赤ちゃんができ、SHOGO（自分の名前）と出生届に書いたこと。異国の地でまさか私の名前をつけてくれるなんて思わなかった。

勉強することの意義、意味を生徒に理解させたい

モザンビークで暮らした2年間、幸せの尺度は“お金”ではないと強く感じた。人々の眩しい笑顔、何に対してもポジティブな姿勢は見習うべきだと思った。一方、日本は裕福で物が溢れているがゆえに考えて行動する機会を失っているのではないかとも感じた。中でも教育に対する意識の違いが気になった。モザンビークでは学校で学ぶことは知識や技術を増やし、生活を豊かにし、新しい職を得るためという明確な理由がある。だから一生懸命勉強する。しかし、日本では、勉強イコール嫌なもの、というイメージが強く、勉強の意義を理解せず、勉強をさせられている状態が多い。

教員として生徒たちと向きあう日々。決意していることがある。

勉強を始める前に、勉強することの意義、意味を生徒に理解させ、勉強を自発的に行い、学習意欲を高める教育を目指している。生徒が主体的に勉強に取り組むようになれば、生徒自身が今よりもさらに物事に対して興味を持ち、将来希望する職種にも影響がでるものだと思うからだ。

ホームルームや授業で協力隊の経験談を話す。「世界は広い。井の中の蛙になるな。幸せの尺度はお金じゃない、自分で決める」と繰り返し伝えている。生徒たちは興味を持って話を聞き、国際協力に興味を持つ生徒も現れてきた。

野田 昇吾さん プロフィール

神奈川県出身。東京農業大学卒業後、青年海外協力隊に参加。アフリカ・モザンビークで野菜栽培を指導した。
帰国後、愛媛県立伊予農業高校を経て西条農業高校へ。科目「農業と環境」のほか、生活デザイン科長としてフラワーアレンジメントなどを教える。

学校で生徒たちに呼びかけ、インターネットでモザンビークの状況を調べ、まわりの友達や家族に発信してもらっている。こうした活動から将来、協力隊に参加することを考え始める生徒も現れた。気持ちが繋がっていくようでとても励まされる。

自分自身が国際協力に関わることも大切だが、教員という立場で、生徒たちに国際協力について伝えることが、国内にいながらできる国際協力だと感じている。

農業実習で生徒を指導

野田さんへのエール！

愛媛県立西条農業高等学校
教頭
松木 義明 さん

卒業後の生徒たちが社会で活躍できるよう励まして

西条農業高校は100有余年の歴史ある伝統校で現在の生徒数は240人です。野田先生は何でもできるオールマイティタイプです。メリハリある指導で生徒のために積極的に動き、3つある学科の学科長を務めてくれているほか、文化祭や運動会などの行事を立案、実施する特別活動課長も担っています。生徒が卒業した後も、社会で活躍できるよう見守り、励ましてほしいです。